

(特別支援学校版「学力向上実行プラン」様式)

令和2年度 徳島聴覚支援学校「学力向上実行プラン」

徳島聴覚支援学校長 名山 優 印

1 学力向上検討委員会構成

学 力 向 上 検 討 委 員		
	職名・校務等担当名	氏名
管理職	校長	名山 優
学力向上推進員	教頭	掛田 千津子
委員	指導教諭, 幼稚部長, 小学部長, 中学部・高等部長, 研究・情報課長 渉外・安全課長, 教務課長, 生徒活動課長, 人権・キャリア教育課長, サポート課長, 寮務主任	樋口恵子, 佐藤環, 濱田純代, 杉本和美, 武市恵子, 喜多恵子, 久米三都代 森美智仁, 瀬部牧恵, 中山育美, 長尾公美子

2 学力・学習状況における現状分析, 目標等

【3つの視点】

- (1)基礎的・基本的な知識・技能の習得
- (2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成
- (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

(幼 稚 部) 幼 児 児 童 生 徒 の 状 況			
よ さ	絵日記を書く習慣がつきつつある。	絵日記をもとに、自分から話したいことが少なく、話が続かなかつたり、深まらなかつたりする。また、文字に書かれていないことについて質問されると、自分なりのことばで答えることが難しい。	
具体的目標(目指す子どもの姿)		成果指標	達成状況
自分が体験したことやその時の気持ちを話すことができる子		記録より、自ら話す、考えて答える、新しいことばを提示するの3項目について、1以上評価ポイントが上がる。	幼児の指標である「自ら考えて話す」「考えて答える」については、それぞれの幼児について1項目以上評価ポイントが1以上上がった。 教員の指標である「新しいことばを提示する」は評価ポイントが1以上上がった。
			B
具体的方策(教員の取組)		取組指標	取組状況
・絵日記の時間に自ら話したり、幼児との話を深めるためのスキル(発問、言葉かけ、保護者への助言等)の向上を図る。 ・絵日記の時間の記録をとる。		ロールプレイを中心に、絵日記指導に関する研修を年10回以上行い、指導の改善を行う。	年間10回以上、研修を行うことができた年度初めに6回、絵日記指導のねらい、指導上の留意点について研修を行った。5月からは月1回、ロールプレイを取り入れた研修を行い、支援のあり方を検討した。
* 中間期の見直し			

達成状況を踏まえた改善事項		
・記録を取ることで、指導中に意識して言葉かけを行うことができたが、記録を数値化して幼児の変化を評価するのは難しい面があった。幼児や教員の変容をどのように把握するのか、再検討する。		
(小学部)幼児児童生徒の状況		
よさ	児童は明るく素直で、授業にも積極的に取り組んでいる。与えられた課題や宿題には、真面目に取り組む児童が多い。	課題 聞こえにくさから言葉や正確な文法等を身につけることが難しい。そのため、授業や集会等の場面では、自分の思いや考えを相手に分かりやすく伝えることに苦手意識を持っている児童が多い。
具体的目標(目指す子どもの姿)		達成状況
・自分の思いや考えを相手に分かりやすく表現し、進んで学ぼうとすることができる。		・80%以上の児童が、自分の考えを進んで発表する回数を増やすことができる。 ・学習発表会で、80%以上の児童が聞き手を意識して話し方や内容を考え、発表できる。
		・全ての児童が自分の考えを進んで発表する回数を増やすことができた。 ・11月に学習発表会を実施した。聞き手に分かりやすいように話し方や内容を工夫し、発表できた児童の割合は89%であった。
		B
具体的方策(教員の取組)		取組指標
・学年や個人に応じた話し方のポイントを教室に掲示し、児童の意識を促す。 ・児童のきこえの状態に応じた情報保障の方法を工夫する。 ・児童が考えて発表したり、話し合ったりする活動を増やした授業を実践研究する。		取組状況 ・「発表や対話の場面を設けて活性化を図り、主体的・対話的に学ぶ授業改善ができた」と回答する教員の割合を80%以上にする。
* 中間期の見直し		・児童の実態に応じて話し方のポイントを示したり、児童が考えて発表したり、話し合ったりする活動を増やしたりして授業改善を図った。全ての教員が、発表や対話の場面を設けて活性化を図り、主体的・対話的に学ぶ授業改善ができた。
達成状況を踏まえた改善事項		
発表や話し合い活動の場面で、「話す」「聞く」の基本的な態度である「話は最後まで黙って聞く」「質問があるときは区切りを見極めて質問する」等に課題が見られた。相手(他者)を意識する対話の基本を教員間で再確認して徹底していかなければならない。また、本校は少人数学級が多いため、話し合い活動が少ない。内容や方法を工夫して集団活動の場面を保障し、積極的な話し合い活動ができる環境をつくっていく必要がある。		

(中 学 部) 幼 児 児 童 生 徒 の 状 況			
よさ	昨年度からの取り組みによって、「朝学習の時間」になると、各自の教室に入り自主的に学習に取り組むことができるようになってきている。	課題	将来の目標を考え始めてはいるが、目標実現に向けた具体的な方策や、課題解決の方法をみつけられていない生徒がいる。
具体的目標(目指す子どもの姿)		成果指標	達成状況
個々の学習課題を適切に捉え、克服しようとする。		・「朝学習の時間」に75%以上が自分の学習課題をみつけ、取り組むことができる。	8時30分までに登校できている生徒については、全員が10分間それぞれの課題に取り組むことができた。
			評価 A
具体的方策(教員の取組)		取組指標	取組状況
・朝学習の時間を設定し、生徒が自主的に学習や課題に取り組む環境作りをする。 ・生徒一人一人の特性に配慮した支援の在り方について検討し、教員が協力して指導する。		・8:30～学活の間の10分間を「朝学習の時間」とし、生徒の学力や課題に合った活動をさせる。 ・学部研修の時間を活用し、学部全体で支援にあたるための情報交換を行う。	・各担任が、生徒の実態に合わせた課題を準備し、「朝学習の時間」の活動をさせることができた。 ・学部研修の2回に1度、ケース会の時間を設け共通理解を図り、学部全体で支援する体制を作ることができた。
* 中間期の見直し			
達成状況を踏まえた改善事項			
・「朝学習の時間」が、確実に定着するよう、引き続き実施していきたい。 ・生徒が自主的に学習できる環境作りに努め、基礎学力の定着を図りたい。			
(高 等 部) 生 徒 の 状 況			
よさ	これまで資格・検定等の受験を拒んできた生徒が、教師の勧めに応じ漢字検定を受検した。また、P検定の受検者が3年ぶりに現れ、目標級に合格できた。資格・検定等の必要性についての理解が進み、主体的に学力向上に向かう流れが作られつつある。	課題	高等部生徒の中でも、学習目標を明確に理解できている者と、まだ十分でない者とがいる。高等部は本校の最終学部であり、学力の向上は即社会生活につながっていることを理解する必要がある。
具体的目標(目指す子どもの姿)		成果指標	達成状況
目標をもち、主体的にチャレンジする。		生徒それぞれが、希望する進路に沿った資格や検定、模擬試験等に挑戦し、受験者のうち70%が目標を達成する。	挑戦する受検級や段階が上がり、目標達成が難しくなってきた生徒もいるが、7名が様々な検定等に挑戦し、5名が自己記録を更新することができた。71%の目標達成率となった。
			評価 A

具体的方策(教員の取組)	取組指標	取組状況
・生徒個々の進路目標に沿った、資格や検定の情報等について、収集と生徒への提供を行い、主体的に取り組めるよう指導する。 ・合格に向けた指導(補習等)や課題の提供を行う。 ・昨年度の自己記録を上回る級の検定や資格試験、模擬試験等に挑戦するよう勧める。	・生徒個々に適切な資格、検定等の情報を年間1回以上提供する。 ・検定等の合格に必要な課題を各検定前2ヶ月の間、1週間に1回以上提出させる。	・資格や検定の必要性について、生徒の理解が進んでいる。 ・生徒同士で良い影響を与え合いながら、上級の検定や資格試験に積極的に取り組む姿勢が見られるようになった。
* 中間期の見直し		
達成状況を踏まえた改善事項		
・生徒の特性や進路を考えながら、可能な範囲で資格・検定の幅を広げていきたい。		